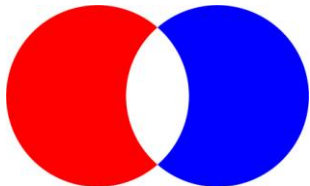


朱色



紺青

目次

P1	事務局通信	事務局：後藤和晃
P2	ニュース・講演会のお知らせ	事務局
P3	会の活動報告	幹事
P4	韓国学生訪問団感想文	訪問学生
P9	奈良旅行とホストの感想文	参加学生・ホスト
P13	会員の広場	山田雅樹
P14	編集後記	編集者

◆ 事務局通信

事務局 幹事：後藤和晃

“嫌日・嫌韓”を乗り越えて 友と出会った！

～2011・夏 高麗大生との交流～

創立14年目、ことしの交流の夏は、私たち会員の記憶に深く刻まれることになるでしょう。なぜなら韓国・日本の双方で“嫌日・嫌韓”のムードが沸騰する中、高麗大訪問団と私たちとの交流が見事に実ったからです。7月当時の世相を思い出してください。まず韓国では、日本の教科書に「竹島（独島）は

日本の領土」という記述が掲載されたとして反日世論が沸騰、自民党議員3人の竹島関連とする鬱陵島訪問にも反対と嫌日ムード一色になっていました。一方、こちら日本でも自民党議員が入国を拒否されたり、東日本大震災の被災地への義援金送付を韓国が取りやめたりしたことへの反感が燃え上がり、嫌韓ムードが強まっていました。

しかし、そんな雰囲気の中でも高麗大訪問団は、迷う事なく来日してくれましたし、ホストの皆さんは彼ら高麗大学生を快く家庭に招き入れ、未来につながる親しい関係を築いていただきました。中でも大学生ホストの2人は、訪問団の帰国後、ソウルを訪問しチング（友だち）との再会を果たしてきました。

国同士の政治的なトラブルをよそに、それぞれの学生や市民たちが親しく出会い、交流する——この夏は、まさしく私たちの目指してきた姿が小さな規模ながら、見事に実現したといえるでしょう。

この日韓の出会いを、陰で支え続けている皆さんにも心から感謝を申し上げます。高麗大



学訪問団の奈良旅行や交流パーティーの実施のため、多数の協力者、会員の方から結果として30万円を超える寄付金をいただきました。寄付された方々の多くが、2000年を超える日韓交流の歴史を何年にもわたって学び続けておいでのシニアの方々です。この

方々は、歴史を学んだ結果として、日本人の血液と文化に一番近いのは、間違いなく韓国だという確信を持っています。そして、日韓双方の若者が、古代のように頻繁に往来し、交流するようになれば、東アジアの未来が、より明るくなるとの思いで交流行事を支えていただいているのでしょう。最後に交流の夏に係わっていただいた全ての皆さんに心からの感謝を申し上げます。

◇ 懐かしの“寿城池”が女子マラソンに登場！

～ 世界陸上・韓国大邱（テグ） ～

8月27日、韓国大邱で第13回世界陸上選手権が開幕しました。その日、早速女子マラソンが現地から生中継されましたが、映像の中に私たちの会とも係わりが深い寿城池の姿があり、印象深く眺めました。まずマラソンの結果です。1位から4位までをケニア・エチオピアなどのアフリカ勢が独占したものの日本勢の一人でママさんランナーの赤羽有紀子選手が終盤に激走し、5位入賞と奮闘しました。

さて寿城池に話を戻しましょう。ベテランの会員の方なら周知のように、この池は岐阜市加納町出身の 故・水崎林太郎翁が昭和の初め頃、大邱の荒野を緑したたる美田に変えようと奔走し、苦勞の末に造成した農業用貯水池でした。水崎翁は貯水池を完成させるや今度は池の周辺に水路を張

りめぐらし、260万坪にも及ぶ広大な水田を実現させます。お蔭で貧しかった農民の暮らしも潤い、水崎翁は大邱農民の恩人と称えられたそうです。翁は昭和14年（1939）に大邱で亡くなり、遺言で寿城池の辺りに埋葬されました。以来70年余りが経過しました。今も毎年4月の桜の時期には大邱市民の手で翁の業績を讃える追慕祭が行なわれており、私たちの会員である翁の子孫も参加しています。

中継では、激走する日本選手の背後に何度も寿城池の美しい姿を見ることが出来ました。地下に眠る水崎翁も命をかけて造成した池の景色が生中継で故郷に紹介されたのを、心から喜んでいただこうでしょう。



◇韓日歴史文化フォーラムから講演会の知らせ

第26回 韓日歴史文化フォーラム

テーマ 韓流ブームは、こうして始まった！
日 時 10月19日（水） 午後6時より
場 所 愛知韓国会館5F
地下鉄 東山線 亀島駅下車・3番出口すぐ
会 費 500円
講 師 NHK チーフプロデューサー 小川純子氏

2003年の「冬のソナタ」の放送をきっかけに、日本では外国製のTVドラマへの関心が、欧米ものからアジア特に韓国ものへと激変し、韓流ブームが起きた。冬ソナからチャングム そしてイ・サンへと韓流ブームを主導している NHK の初代担当者に韓国ドラマに注目した背景など話をしてもらう。

【小川純子氏・略歴】

1985年 NHK入局 報道局配属
1987年 高松放送局
1990年 報道局 ニュース番組NHKスペシャルなど担当
2003年 衛星ハイビジョン局 海外ドラマ購入担当
2009年 報道局編集主幹室



韓日歴史文化フォーラムは、当会との共催事業です。聴講御希望の方は時間までに直接会場へお越し下さい。

◇ 会の活動報告

事務局通信でお知らせした以外の会の行事についての報告とお知らせをします

● 高麗大交流団の受入れの実施

① 交流団 朴 賢淑 団長ら 14名

② 訪問団 スケジュール

7/22 (金) 11:00 セントレア着 バスにて奈良へ 法隆寺見学後、奈良ユースホステル泊

7/23 (土) 平城宮・朱雀門・平城宮資料館・東大寺など見学 18:00 国際センターにてホストと対面

7/24 (日) ホスト家族と文化交流後、17:00 名古屋韓国学校にて交流パーティ (63名 参加)

7/25 (月) 10:00 ニューグランドホテル集合後、名古屋大学・付属高校訪問・大学生交流

7/26 (火) 自由行動後、名鉄特急にてセントレアへ 17:45 セントレア発、帰国の途へ

特記事項

7月22日の午後、訪問団は奈良・法隆寺に到着、さっそく高名な管長 大野玄妙師に面会しました。大野師は、法隆寺創建の際には百済や高句麗の僧たちの献身的な働きがあったこと、自分たちは今も、その大恩を忘れず大先輩たちの供養を続けていると話されました。翌23日には一行は東大寺を訪問、前執事長の筒井寛昭さんの計らいで大仏の膝の所まで登らせて頂き、1300年前に大仏を飾った黄金の名残に触れ、感激していました。

● 会計報告・寄付

1) 交流のタベ

収入	会 費	87,500	支出	料理・飲物 (鈴木幸)	79,745	※接遇費用に繰入れ
	3500 * 21			会場の飾付け (須田)	4,168	
	2000 * 4			食器類・雑費 (伊藤)	9,806	
	1000 * 6					
	寄付金	309,000		会場費 韓国学校	20,000	
	計	396,500		計	113,719	差引残高 282,781

2) 訪問団に対する接遇・支援費用 (寄付金より充当)

収入	寄付金 残	282,781	支出	奈良旅行経費 (後藤)	85,000	
				" (鈴木幸)	141,279	
				写真代 (山田)	740	
				出迎 お茶代 (伊藤)	3,950	
	計	282,781		計	230,969	差引残高 51,812

顧問 ・ 協力者	氏 名	寄付金	寄贈品	会 員	氏 名	寄付金	寄贈品	氏 名	寄付金	寄贈品
	石原 俊洋	10,000			伊藤みつ子	1,500		出口 和代	3,000	
	李 尚勲	5,000			伊藤 義郎	5,000		土岐 良文	3,000	
	金 龍鐘	10,000			井ノ口 俊子	5,000		長澤 進	10,000	
	鄭 禧昇	20,000			大久保孝造	5,000		長田 竹子	3,000	
	松本 太郎	5,000			大嶋 明	5,000		夏目 玲子	2,000	
	倉知 實	2,000	果物		太田 道子	5,000		野村 博司	10,000	
	後藤 秀隆	2,000	果物		岡崎 洋子	3,000		原 和夫	3,500	
	倉知 通夫	2,000	果物		小出 宣昭	1,500		二日市 壮	1,000	
	倉知 義泰	2,000	果物		小坂井多恵子	3,000		増田 一夫	1,500	
合計 45名	倉知 武治	5,000	果物	小 計	後藤 和晃	5,000	キムチ・果物等	松尾 博雄	5,000	
	匿名 2名	120,000			橋 澤 一 生	3,000		松田 哲 青	2,000	高 速 カ ー ド
	小 計	183,000			佐 藤 昭 子	1,500	手 作 り 料 理	三 尾 和 廣	3,000	
					鈴 木 一 子	3,000		安 田 守	5,000	
					鈴 木 奈 津 子	500		山 下 智 子	3,000	浴 衣 2 着
					須 田 奈 保 美	1,500		山 田 あ き 子	2,500	
					成 功	10,000		山 本 瑛 子	5,000	
					田 口 良 浩	5,000				
					小 計	63,500		小 計	62,500	

※寄付者の名前が漏れている場合は、発行者までお知らせ下さい。

◇ 2011 年夏・高麗大学訪問団の皆さんの感想文

前ページで会計報告としてお伝えした通り、今年の夏も韓国から高麗大学校学生訪問団を招待しホームステイで共に過ごしました。その訪問団の学生たちから寄せられた文章をここに御紹介します。

○古都 奈良に感動！

———オ ジンファ（教育学科）

私は、今回の5日間の旅行でとても多くの収穫を得たことを喜んでます。出発前日までは、日本語もろくに話せず、どうやって5日間過ごしていけばいいのか。知っていることは少なく、荷物にもならないだろうかと、いろいろ心配しました。しかしそんな心配は無用でした。

初日に訪ねた法隆寺、名前は聞いたことがあったけど、実際に見てみると国史試験に毎回登場する名所、法隆寺でした。いつか、一度は直接見てみたいと思っていた場所ですが、実際に目の前に立っている金堂壁画や五重塔を見ながら感動しました。それだけでなく、ご住職にお会いすることが出来たのも深く印象に残っています。なかなか得られない機会だけに、一言一言に感謝しながら聞いていました。特に法隆寺では、三国時代に我が国との交流関係を確認することが出来、印象に残りました。

2日目は、東大寺の大仏を近くで見られたのが貴重な体験でした。ただ聞くだけよりも自分の目で見て直接確認すれば、驚きも大きくなります。2日間に渡って周辺地域を観光している間、ご尽力頂いた日韓市民ネットワーク・なごやの皆様、本当にありがとうございました。長い旅行中、地域情報を教えて下さり、なかなか出来ない鹿に餌を与える体験させて下さったりと、細かな部分まで配慮して頂いた事に感謝しています。

ホームステイでもまた、今までに経験したことのない面白さ、新しさがありました。ホストの皆さんが本当に親切で私を心から迎えてくれたのが感じられました。以前から私は訪問した国の伝統衣装を着てみたいと思っていたのですが、今回浴衣を着ることが出来たのも嬉しかったです。

名古屋韓国学校で行われたパーティーも面白い経験だったし、改めて皆様に深く感謝申し上げますと共に、またお会い出来る日を楽しみにしています。



○日本への理解が進んだ！

———ユン ユチャン（地理科）

地理という学問の特性上、あちこち旅行する機会がたくさんあった。しかし、旅行するたび、現地の人たちの姿をそのまま感じたいと渴望していた。今回の教育調査は、観光とホームステイなどいろいろな交流活動が結びついて日本の歴史と文化、そして現地の人たちの考え方までのぞくことが、できるよい機会ではないかと考えて、参加を志願した。

期待に胸を膨らませて、到着した日本で私たちを迎



えてくださったのは日韓市民ネットワーク・なごやの皆さんだった。白髪交じりの年配の皆さんが、私たちを迎えてくださる姿に最初は申し訳ない気持ちもありましたが、誠実な真心を感じました。また、奈良旅行の間ずっと私たちに付き添って、いろいろと助けてくださったマユさんにも大いに感謝したいと思う。年配の方が多く、少し緊張していたが、韓国語が流暢で同年代のマユさんのおかげで、雰囲気が明るくなり、日本に対してたくさんを知ることができた。日韓市民ネットワーク・なごやのおかげで、法隆寺や東大寺、平城京など、様々な遺跡で寺の代表や担当者の詳しい説明を聞くことができた。奈良の遺跡の中で印象深かったのは、平城京であった。あのような広い地域を文化財保護地域に設定して、一つ一つ復元している日本の努力をうらやましく思った。しかし、天文学的な金額を使って、天皇の宮殿を復元し、中に警備員を3～4名常駐させる様子には、少し違和感も感じた。二日目はホストファミリーと一緒に過ごした。私のホストファミリーは、ご夫婦お二人の在日同胞の方で、流暢な韓国語を話すことができ、コミュニケーションに問題がなかった。お母様は、韓国に関心のある人々

を集めて韓国語講座を開いていらっしやったが、夜、お母様の生徒さんたちと話をする機会があった。生徒さんたちは、ほとんどはおばさんたちでした。年齢に関係なく、韓国文化に関心を持って、積極的に韓国を学ぼうとするおばさんたちの姿に大きな刺激を受けた。そして、韓流の力も直接感じることができた。お母様も韓流のおかげで、在日同胞の地位がよくなったと話されていた。ホストファミリーと一緒に風呂にも行き、トヨタ博物館も見学した。一緒にいる間は夜になると集まってお酒を交わし、韓国と日本の生活と文化について話をした。日本の実際の生活を垣間見ることができるよい機会になった。

名古屋韓国学校や、名古屋大学での交流活動もとて興味深い活動だった。特に名古屋大学では、日本の大学生たちの生活と悩みに対して、多くの意見を交わ

すことができ、中国人留学生も交えて、韓中日大学生が集まって、お互いの共通点と違う点を発見するよい機会になった。歴史的には緊密に関係を持ちながらもお互いの葛藤も持ち合わせている韓中日の三カ国の学生たちが忌憚なくお互いに話を交わして交流したという点に満足し、印象的な思い出となった。

日韓市民ネットワーク・なごやとの交流は私の単純な旅行以上の感動を与えてくれた。日本に対する、漠然とした誤解や、先入観は薄れていったし、日本の生活や文化に対する理解がより一層深まった。人と人との間の交流は、両国に残っている、不必要な憎しみと誤解を洗い落とすために最も効果的なことだと考える。今後もこのような交流活動がずっと続いて多くの人々が参加し、両国間、そして東アジアそして、さらには世界平和への一助となるように願っている。

○ホストの親切に感動！

——ハン ヒョンソク（教育学科）

今回のプログラムに参加することができ、非常に幸運でしたし、大変、有意義な経験をすることができました。申請するとき、申請人数が7名未満であれば、プログラムは行われないということで内心心配していました。しかし、幸いにも多くの学生が申請をし、恵まれた仲間たちと楽しい時間を過ごすことができました。

日本に行く前に、私たちが行く奈良、および名古屋について、みんなで分担をして、事前調査を行ない、パンフレットを作り、前もって勉強をすることで、単純に目で見ただけの旅行でない多くのことを感じて学ぶことができる機会となりました。そして、名古屋に到着して最もおどろいたことは日韓市民ネットワーク名古屋の皆さんが、私たちを親切に出迎えてくださったということです。特に後藤先生は、私たち一行を導いてくださりながら、様々な遺跡を一緒に見て回り、説明してくださいました。おかげで、深く理解することができたようです。そして、韓国語も皆さんとてもお上手で、韓国に理解があり、私たちが日本語が上手にできなくてもコミュニケーションがうまく取れ、とても驚きました。長い道のりの間も、疲れた顔を見せることもなく、一つでも多くの遺跡を私たちに見せようと熱心に案内をしてくださって本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

そして、今回の旅行が本当に有意義な経験だったと思われる点は、単に外国人が、日本を旅行したというのではなく、私たちが、ホームステイを通じて、日本人の生活を直接経験できたということです。韓国人が

日本に旅行すれば、ホテルに泊まって、旅行案内パンフレットをみて、観光をして、ショッピングをするものだが、今回の旅行では、ホームステイをして、日本人の家庭で寝食を共にし、話を交わす機会を持つことができ、韓国とは違う日本人の生活がわかる貴重な経験になりました。私がホームステイをしながら、感じたことは日本人は本当に、きちんとしているということでした。外出するとき、テレビに埃がかからないように、布をかけて出かけることや、トイレを使用するとき清潔さのために、男性も便器に座って用をたすということなど、本当に日常生活の中できちんとしてることが身についており、本当に驚きました。そして、私がお世話になった、ホストファミリーご夫妻は、最初の日の夕食に、私が疲れて、おなかがすいているの



で名古屋三大名物の一つ味噌カツを買ってきてくださった。そして、一緒にお風呂に行き、疲れをとることができるように配慮してくださった気持ちに感動しました。次の日には、名古屋城に行き、楽劇を見て城を見学した後、あちらこちら歩き回り、ショッピングに付き合ってくださいました。本当にありがたく思いました。また、夕方には、韓国のノレバンカラオケに行き、一緒に歌を歌い、楽しい時間を持つことができました。ホストファミリーのご夫妻が本当に私に親切にしてくださり、本当に忘れることのできないよい経験になりました。

今後も、機会があるのであれば、私も韓国の私の家で、ホームステイをして日本やほかの外国の人たちに、韓国の良い印象を残したいと考えています。

5日間の旅行は実り多いものだった。まず、今回の日本訪問を通じて最も大きく変わったことは日本全般に対する私の考えだ。日本は、私たちの国と歴史的にとっても密接に関係を持った国で、現在までもいろいろな面で互いに助け合いながらも、互いにぶつかり合ったりする国だ。そのためかもしれないが、日本に対して持っている認識が何となく良いものではなかった。

しかしながら、今回多くの日本人学生たちに出会って、またホームステイをしながら体験した日本の皆さんは、私が、行動一つ一つに気を付けるようにするほどとても親切で温かく、ただただ感謝するだけだった。特に今回訪問した先生と学生たちから、日本にいる間ずっと最上のもてなしを受けて帰ってきた。それで、それで余計に思うのかもわからないが、私たちにかんして、いろいろしてくださった皆さんの態度におのずと頭が下がり、身の置き所もわからないほどだった。これが日本の文化なのか、日本人の性格が本来そうかどうかというのが分らないが、明らかにこのような点は、ある程度見習わなければならないと感じた。

また、ずっと思っていたこととして、日本はどこへ行っても本当にきれいで、美しいということだった。私たちが訪れたところは大都市ではなかったが、それなりのにぎやかな市内へ行っても、閑静な田舎へ行っても、見渡すところ、絵のようだった。あまりにきれいなところを見ながら、本当に生活するに良いところだなと大いに思った。

名古屋韓国学校や、名古屋大学への訪問を通じて、私たちは日本の教育現状に関することや、日本の大学生が、韓国の大学生とどのように違っているのかを知った。聞いていたように、日本と韓国は似ている点が本当に多かった。しかし、最も大きな違いは、日本の大学生と韓国の大学生の違いは、大学卒業後の姿だ。韓国の大学生は、就職のために自分自身の能力を一つで

も得るように汲々とする。たとえば、大学時代に得た単位、各種資格、公認認証試験点数のようなことにこだわり、別名【スペックを積む】ことに追われる。しかし、日本の学生たちは、そういう点数よりも、どのくらい多様な経験をしたか、人格的に良い点があるなどが、さらに重視されるのだという。かえって、過度に学業が優秀な場合、企業側から選ばれない場合もあると聞いてとても驚いた。もしかしたら、子らが韓国よりより一層合理的な形ではないかと考えた。もちろん様々な面に能力を持っていることは重要だが、それよりは、何か一つに秀でていることや、優れた人格が企業で一層必要とされるのではないかと。結局は、私たちもそのような方向へと向かうことになるのではないだろうか。

日本という国に対して、たくさん学び、またたくさん感じて戻ってることができ、とても楽しい時間を過ごすことができた。そして、人という最も重要な資産を得た時間でもあった。今回の旅行でであったすべての皆さんに深く感謝申し上げます。



○在日のホストにカムサハムニダ！

7月22日は早朝5時に起き、日本での全ての日程を終えて26日に家に帰るまでの5日間がとても早く過ぎてしまいました。楽しみ半分、心配半分で飛行機に乗ったこと、空港で私たちを歓迎して下さった市民ネットの皆さん、奈良の鹿と「せんとくん」、ホームステイ生活、名古屋大学での発表会と学生たち、最終日の自由時間、そして道に迷ったことまで、全てが記憶にしっかり残っています。

私が一番心配だったのはホームステイしているときの意思疎通だったのですが、幸いにもホストが在日同胞の方で、韓国語がとてもお上手でした。その上お母さんも韓国に強い関心をお持ちで、韓国語を教えていて、また勉強している方々も韓国の文化、特に芸能人について情報を共有していらっしやいました。ホームステイ初日は夕食の後、その人たちと一緒にお話しをする機会があったのですが、皆さん、韓国の全てについて本当に強く関心を持っていまし

た。芸能の話だけでなく、ソウルのオススメの名所や卒業後にやりたいことなど、たくさん質問を頂きました。特に芸能のお話をするときはとても積極的で、韓流ブームを実感しました。夜は銭湯に行った後、ビールを飲みながら韓国と日本の文化について話をしました。日本の生活文化や在日同胞としての生活に直に接する良い機会となりました。名古屋韓国学校と名古屋大学での交流も、意義深い経験でした。ここでは、初めて同世代の友達が出来ました。そのせいかとても嬉しくて、強く記憶に残っています。歴史的な感情を排除し、純粋に大学生活と日常の苦労を分かち合う大切な時間でした。

あちこち探訪に行き、普段も旅行にはよく行くのですが、ここの文化に直接触れるのは容易ではありません。今回の探訪は現地、それも韓国ではなく日本の文化と生活を肌で触れ、体で体験することが出来ました。特に多くの人たちと出会って話をした機

会を通じて、言葉は通じなくとも心は通じる自信を持つようになりました。日本で得た経験と大切な縁

は忘れられず、私に本当に大切なものを残してくれたと思っています。

○記憶に残る在日同胞の話

キム ジャジュン（教育学科 博士課程）

最初は5日間ゆっくり遊んで来ようという考えでした。飛行機に乗った時も、降りた時もそうでした。空港の出口で、皆さんが歓迎プラカードを掲げているのを見て、面白いと思うと同時に、なんだかよい予感がしました。そして、実際、予感通りになりました。奈良で、いろいろな文化財を見ているときも、ホームスティの時も、韓国学校や、名古屋大学での交流、すべてが楽しい時間でした。皆さんの親切と心づかいのおかげです。

奈良は、文化財の多い、ちょうど韓国の慶州に似た都市でした。説明をしてくださった方の言葉を通じて、このような文化財が当時韓国の影響を少なからず受けたものだということを知りました。あえて、比べるならば、少し派手だと感じました。以前受講した日本語の授業で、中世の日本では派手な南宋文化の影響もたくさん受けたという説明を受けたことを思い出しました。過去に、韓国、日本、中国間の交流は、思っていたより、緊密に行われていたようです。そのようなことを考えながら、文化財を見ると改めて感慨深く感じました。

ホームスティをしてくださった家族の方のご親切も触れないわけにはなりません。私のホストであった山田雅樹さんは、お兄さんのように心を配ってくださいました。お父様とお母様もまた、とても親切にしてくださいました。ホームスティの初日の夕食に、近くにある有名な回転寿司のお店に連れて行ってくださいました。大変おいしかったです。ただ、納豆が上にのった寿司だけは、少してこずりました。しかしながら、その味が、一番長く記憶に残り、今でも思い出されます。二日目は、山田兄さんと一緒にテレビ塔に上り、名古屋市内を眺めました。展望台の金網を通して吹いてくる風がとても気持ち良かったです。その日の夕方

は、家族の皆さんとお酒を一杯やりながら、いろいろな話をしました。お父様、お母様は、その場でウクレレを演奏してくださいました。よいお酒と、よい人々、そして、美しい演奏が一つになって、ロマンを感じることができました。三日目の朝、私たちは別れる前に、まるで家族であるかのように家の前で写真を撮りました。ホストの家族の皆さんのご親切にもう一度感謝を申し上げます。

その日は、山田兄さんと、韓国学校へ向かいました。皆さんと交流があった日です。何よりも、皆さんと長くお話をすることができたことがよかったです。特に、私に多くの話を聞かせてくださったお二人の在日同胞のおじい様たちのお話が記憶にたくさん残っています。その方は、敗戦以降、日本で在日同胞である自分たちがどのように生きてきたのかというお話をしてくださいました。私は、以前、敗戦直後、日本の在日同胞たちの民族学校設立の運動に関する本をいくつか読んだことがありました。おじい様たちのお話は、その内容を生きた体験談として私に聞かせてくださることになりました。よい勉強をさせていただいたと思い、とても満たされた気持ちになりました。これもまた、皆さんがこのような場を準備してくださったおかげで得た、思いもかけない収穫でした。

日本に滞在した5日間は、行く先々で皆さんの親切と心づかいを感じることができました。

そして、その親切は、心からのものであるということを感じました。すべての皆さんに感謝申し上げます。そして、交流がずっと続くことをねがっております。山田兄さんをはじめとして、どなたでも、韓国にいらっしゃって連絡をくだされば、お食事にでも招待したい気持ちでいます。

○実感した家族の温もり

ウ ソンヨン（大学院教育学科）

今回の旅行は、実は毎日繰り返される重い現実から暫し逃避したいという目的で申請した。単なる逃避だった私の目的とは違い、この旅行は期待していた以上に中身が濃く、多くのプレゼントを頂いた。

7月22日金曜日、名古屋・中部国際空港に到着した私たちをくれたのは、「高麗大学校ようこそ」と、韓国語で可愛らしく書かれたボードと、「マユ」さんや後藤さんをはじめとする日韓市民ネットワーク・なごやの皆さんだった。皆さんの温かい歓迎を受け、私たちの旅情をかき立てながら出発した。バスで3～4時間移動し、奈良に到着した私たちは東大寺・平城京等多くの遺跡を訪問した。後藤さんをはじめ、多くの方が詳しく説明してくれたお陰で理解することが出来た。

2日目からは各自伝えられたホストと会い、ホームスティが始まった。私は名古屋から少し離れた稲沢市でホ

ームスティを体験した。私のホストだったリエさんとそのご家族との出会いは、日本の家族と文化を経験できる良い機会だった。ご家族は、単なる寝食の提供や家族の文化交流を超えて、「日本人たち」あるいは「日本の家族」の温かさを心で感じさせてくれた。ご家族と共に過ごした2日間、韓国と日本の家族文化の違いだけでなく共通点も見出すことが出来た。特に、お母さん自ら浴衣を着せてくれたときに伝わってきたお母さんの愛情は、国籍関係なく普遍的で深いものを感じた。リエさんの家族はお隣さんを招いてバーベキューパーティーを開いた。お父さんからは「韓国から来た賢い大学院生」と紹介されたけど、この時はただただ恐縮するばかりだった。リエさんの家に泊まり、私が受けた愛情と歓迎を、次の日誰かに分けてあげようと心に決めた。

3日目は名古屋韓国学校を訪ね、市民ネットの会員と

交流する時間があつた。ここで会った皆さんが私たちの訪問を歓迎して下さい、とても嬉しかった。これからも活発な交流活動が続くことを願っている。

4日目は名古屋大学を訪問した。最初に訪ねた名古屋大学附属中・高等学校で教頭先生の説明を聞き、そのプログラムが英才学校のものに似ていると思った。また、高校～大学間の交流が活発な場合、大学と附属中・高等学校が連携できるという長所について考えてみた。まず、大学の立場では未来の大学生 (prospective student) の実質的な需要に、より敏感な教育プログラムを構成す



ることが出来るようだ。仮に、現在の高校生が大学を卒業した後で独立した人格体になるために大学では何を教えればいいのか悩み、彼らの成長がより自然に近い教育プログラムを企画することが出来るようだ。中学・高校の立場では、大学入試はもちろん大学の文化、卒業後の進路などに対する情報での接近が容易なので、高校での進路指導がより实际的に出来るようだ。

名古屋の大学生との交流活動は、今の日本の大学生の生活を垣間見る機会を与えてくれた。特に私が気がかりだったのは、何故日本の学生は奨学金を受けて勉強した後、それを償還するのを自身の責任とみなすのが韓国の学生より自然に見えるのかということだった。その答えは、日本の大学生との対話の中で見つけることが出来た。日本では個人が独立する時期を大学入学と見るが、韓国ではその時期を結婚するときと見るからだ。韓国では、大学登録金に対する家計の負担を減らすためにはもちろん大学登録金の水準が下がらなければならないが、学生たちが進んで解決する文化が作られることも重要なことだと思った。

4泊5日の日程で、このような小さなことへの感動、宝物のようなご縁に恵まれたのは嬉しいことだった。共に行動して幸せだった教授や友達、そして旅行の初めから最後まで楽しく応援して下さい市民ネットの関係者の皆様に、心から感謝しています。全てに感謝します。

○満ち足りた夢

—イ ユンジュ (大学院 生物専攻)

旅行の前、私は今度の旅で人生の指針となるような体験ができればと考えていました。旅行を終えて、今非常に満足しています。日本旅行を通じて、私に対しての信じるどころが生じたからです。私がすでになんらか大変なものをもっているからというわけではありません。旅行の日程で出会った人々を通じて、「世界の中の多くの人々が、同じような悩みに苦しみながらも、一生懸命生きていて私もまた、悩みながらも前に進めばよいのだ」という励みを受けたからです。

日韓市民ネットワークの方々、私たちのおじいさんの年代にあたる方々だったのに、私たちに対して、誠心誠意を尽くしてもてなしてくださいました。最後の日 (7月25日) 中部国際空港では、搭乗時間の都合上5分ほどしか会うことができませんでした。しかし、見送りをしてくださるために遠くから来てくださったそのお気持ちに心から感動して涙が出そうになりました。4泊5日の間、私たちを支えてくださる姿を通じて多くのことを学びました。深く感謝申し上げたいとおもいます。ホームステイをした私たち全員、最高のもてなしをうけ、もったいなく、そして、驚きました。似ている点も多いですが、違う

点も多い国日本、日本の家庭も同じでした。見慣れない外国人が来て、2泊3日を過ごすというのは、いろいろ不便な点もあったでしょうが、心よりうれしくもてなしてくださることに、言葉ではなく、気持ちで感じることができました。ホストファミリーの皆さんにも感謝申し上げて余りあります。

行き交う地下鉄、徹底したごみの分別収集、など日本に対して少し知ることができました。一人、一人が日本を物語ってくれ、私を反省させました。日本は学ぶ点の多い国です。

日本教育調査に発つ前に、日本教育に対して勉強をしていました。そのためか、各学校を訪問して先生や学生たちと話あう時間が、耳にどんどん入ってきました。名古屋大学で聞いた講義も印象的でした。講義を

聴く時や、大学生たちと交流するとき、昼食時に食堂で出会ったドイツ人の留学生と話をするときには英語を使いました。他の言語を使う人々を結びつける英語に興味をもち、さらに一生懸命英語を勉強しようと強い意欲がわいてきました。8月から英会話の勉強を始めることにしました。

また、韓国の歴史に対しては、高校の時まで教科書で学んだことのほかには関心がありません



でしたが、今回、奈良を見て回って日韓市民ネットワークの皆さんの説明や教授先生の説明を聞いて、歴史に対して、新しい興味を持ちました。これからは、文化財をみる私の目が以前とは変わりそうです。4泊5日の間、日本で過ごしながらか夢を見ているようでした。思えば、口元に微笑が浮かぶような満ち足りた夢を見たようです。しかし、夢を見ることで終わることなく、今からはその夢をかなえるため一生懸命前に進もうと

○友情を育んだ5日間

日本から戻ってきてもう一週間になる。旅行の思い出はまだ私の胸の中に強く残っている。今回の旅行に参加することになった動機は、以前から私は、日本に関心を大いに持っていたからだ。高等学校1年の時、初めて日本に行ったが、ホームステイをしながら日本人の友人がどのように暮らしているかを見たり、親善競技を通じて、日本人学生の高校生活を知った。また、東京の新宿や原宿を歩きまわり、若者文化も見えた。そのとき、日本で経験したすべてが私には新しく思えたし、あこがれの対象であった。その時から、私は日本に関心をもち、また日本に行こうと考えていた。しかし、日本を経験する機会は多くはなかった。日本に対する、情熱が冷めかけたころ、日本教育現場調査という掲示を見つけた。そのときまさにこれだと思った。

仁川国際空港から飛行機で1時間50分、名古屋中部国際空港に到着すると、名古屋日韓市民ネットワークの皆さんが、私たちを歓迎して迎えてくださった。皆で写真を撮った後、バスに乗って奈良に移動した。バスの中で簡単な自己紹介をして、マユという日本人の友人や、ほかの学生たちとたくさん話を交わした。奈良に到着して2日間は、法隆寺をはじめ有名な寺院を訪問し、その寺院についての詳しい説明を受けた。最初の夜は、ユースホステルで先生と学生たちが一緒にお酒を飲みながらくつろぐ時間を持つことができた。

翌日の午後に、名古屋に戻りホームステイをした。私は、後藤さんの知人の方のお宅で二晩お世話になったのだが、その方がとても親切に、家庭生活について教えてくださったり、食事時には食事が口に合うか尋ねてくださったり、日本人の細やかな心使いを一層知ることになった。ホストのお宅は、外観は現代的な

思います。

まだ定まらない私の翼に力を与えてくれた日本教育調査訪問。指導してくださった教授先生をはじめ、4泊5日を共にした素晴らしいチームメイト、日本で出会ったすべての皆さんに感謝の気持ちを伝えたいと思います。また、私が日本で受けた真心に満ちたもてなしの心は、今度は私がほかの方々伝えてまいります。

イ ホンフェ（体育教育科）

建物のようなだったが、内部は伝統的な畳の家だった。部屋の中には、障子、ふすまそして掛け軸をかける床の間があった。ドアの低さが低く、少し不便だったが、日本の伝統的様式の家で過ごす機会を持つことができ、うれしく思った。

3日目午前に、ホストの友人の方と犬山城へ行き、からくり人形博物館へも行った。犬山城は、思っていたよりとても高く、登山するような気持ちで上に上がった。からくり人形博物館では、からくり人形が動くのを直接見たかったのだが、それは、見る事ができず残念だった。午後には、名古屋韓国学校を訪問し日韓市民ネットワークの会員達との間で楽しい会話が弾んだ。

その翌日は、名古屋大学と名古屋大学附属中高等学校を訪問した。特に名古屋大学で、韓国と日本側の発表者が、自分の原稿を発表して意見を交わしながら、韓国と日本の若者たちはどのように暮らしているかについての話をした。韓国の学生たちは、学費を稼ぐためにアルバイトをし、就職のためにTOEICの点数を得るなどのスペックを積む一方、日本の学生たちはアルバイトをするが、専攻に関係なく、就職するなど、TOEICが韓国ほど重要視されてはなく、自由な活動しながら夢に向かって生きていてうらやましいと思った。

夢のような4泊5日の旅行は、このように過ぎて行き、本当に多くのことを感じて、多くのことを学んだ。また、新しい人々に出会い、友情を育んだ。このような機会を得ることは、なかなか難しいと思うのだが幸運だった。今回の旅行が私の人生の転換点になり、また、夢に向かって力いっぱい進むことができる起爆剤になればよいと思う。

◇ 高麗大学校訪問団ホストの方々と奈良旅行の感想文

高麗大学校学生訪問団をホームステイとして受け入れられたホストの方々、そして学生と共に奈良へ出かけられた方々の文章を紹介します。

○対話して、飲んで、騒いで！

鈴木真由（奈良旅行に同行）

私は「話してみよう韓国語」の大会で後藤さんと知り合い、以前から日韓の交流に興味があったので、日韓市民ネットワークの会員になりました。そして今回、高麗大学からの学生訪問団と一緒に、奈良で古代の日本と韓国の関係の深さを、勉強させていただきました。交流会でも少し話しましたが、高麗大学の学生たちは、

まず来る前に日本について、それぞれテーマを決め調査し、冊子にまとめて予習してきていました。そのためか、行く先々で本当に熱心に話を聞いていて、わからない事をすぐに聞かれました。日本人なのに、その質問に答えることができず、もっと奈良の事について勉強しておけば、何かの役に立ったのでは、と感じて

います。奈良の世界遺産などの知識が、あまりないまま奈良に行ってしまいましたが、一緒に説明を聞いていた百済史専門の教授のおかげで、とても楽しく寺社仏閣を見ることができました。「この仏像は似たものが韓国にある」「この塔は、韓国のどこの塔と似ている」などという話を教授から聞く度に、日本と韓国の関係の深さと、交流の歴史の長さを感じる事ができました。奈良で、1300年前の建物や金銅仏を、韓国の人たちと一緒に見ることで、日本と朝鮮半島との関係の深さを実感することができました。



また、ユースホステルに着いてからは、参加した女子全員と、部屋で日本のビールや日本酒を飲みながら、いろんな雑談をしました。ここでもびっくりしたのが酒を飲みながらも、教育についての話や、勉強の話もたくさんするという事です。日本の大学生が、どれくらい勉強してるのかとか、日本ではどうだ？など、みんなが日本に高い関心を持って今回訪問しているようでした。そして2次会では男子学生と韓先生も交えて、スカートの長さの話をしながら、日本との比較の話も交えて、楽しく飲んで騒ぎました。「ソジュ（焼酎）に慣れてるから日本のビールじゃ全然酔えない！」とか言って、どんどん飲んで、歌って、一緒にユースホステルの職員に注意されるほど盛り上がりました。さらに「寝れない」と言っていた子とホテルを抜け出して公園で3次会までやって、本当に仲良くなりました。やはり日本と韓国は隣の国で、昔からたくさんの交流もあるし、つたない日本語と韓国語でも、こうやって会ってすぐ仲良くなれるという事は、すごいことだと思います。この縁を大切に、これからもこのような交流を通して、お互いを知る機会がもっと増えたら、日本と韓国の関係はもっとよくなると思います。

高麗大の友人たちとの今後の出会いが楽しみです。

○ミンレと過ごした夏

会員：伊藤みつ子

「ホームスティって、必ずしも自宅でお世話しなくても良いのでは？」これまで韓国語との戦い、とか誰かに助けて貰うことばかり考え、はたして私自身が楽しんできたの？ 楽しむ余裕が有ったの？という反省も踏まえ今回2泊のうち1泊はホテル泊、ドライバーは全て主人に頼み夫婦のみでお世話をする、というスタイルを試みた。

「ニックネーム“ミンレ”と呼んでください。」と大学院・修士課程で教育史哲学を専攻されている崔淨禧(최정희)氏。院生さんにしては落ち着いた方、と思いきや小学校3年間、中学校でも3年間教職を勤めた後での履修とのこと。アッシー君を主人に任せたお蔭で、道中から隣同士に座って話のはずむことしきり。名鉄犬山ホテルの温泉にも一緒に入ったら、お湯の中で肩まで揉んでくれ、孫が出来たような気分。その後の会席料理は、手元にお品書きが有るので、頂きながら納得してこれが日本の会席料理！と喜んでくれた。

翌日は国宝の如庵にて茶席を体験、ちょうど犬山市のボランティアの方が見え如庵を詳しく解説して下さい。その後、国宝・犬山城へ。帰路、星原氏グループと出会う。お昼に食べたいものは？「ひつまぶし」とひらがなで書いてくれる。彼女は日本語を専攻されたことは無いそうだが、旅行前の独学で或る程度読め、話せるようだった。韓国語で話しかけると出来る限り日本語で答えようとされたのには、さすがの教育者で脱帽。故に今回は彼女の日本語と私の韓国語が、いい勝負(笑)だった。午後、交流会場に到着すると「みつ子さんは、料理準備のご担当？」と聞いて私のそばで

ずっと手伝い、二階に上がってからは教室装飾をされていた須田さんの後をついて手伝いはじめた。そのよく気の付くことに感服。



交流会終了後、事務局の武田氏を交えて三人でカラオケへ。始めは躊躇していたが、マラカス持ってリズム感良し、床を足で鳴らしてノリも絶好、DAMのリモコン操作も見よう見まねですぐ覚えてしまう才女は、「未来へ」という曲を日本語で歌った。ここでも脱帽。帰国後、今度は日本語でメールすると韓国語で返事が届いた。実に器用で面白く、優しいミンレと過ごした夏でした。ト マンナヨ！

ミンレの今一番の関心事は「家庭教育における父性の役割」でした。我が家の例ですが、うちのお父さんは一人息子の子育て期間中、ほとんど一切を母である私に任せて見守っていてくれました。争ったことも無く信頼関係の中で育ったので父子関係は今も良好、

とっても仲が良いですよ。追記しておきます。

○爽やかな青年！イ ホンフェ君

土川 照恵

私は日韓市民ネットワークの会員ではありませんが、後藤和晃氏より頼まれてホストを引き受けました。今回で3回目、男性は初めてです。といっても予定が重なり一緒にいたのは、夕方から朝までの2泊3日ほどでした。

イ ホンフェ君は、大学で体育を専攻していて、立派な体格と健やかな精神の持ち主の好青年でした。日本語がびっくりするほど上手で、会話に不自由することはありません。兵役はもう済ませたというだけに、礼儀正しく振る舞い、朝には布団の四隅がきちんと畳んであり感心したものでした。食事には寿司をつまみながら、かつ飲みながらいろいろと話をしました。

今は一生懸命勉強して日本交換留学生の試験に合格し、日本の大学で学び日本に関係のある仕事をしたいと話してくれました。彼の日本語はかなりのものですが、留学が本当に実現すれば、きっと日本人と変らない言葉話を話すに違いないと思いました。今から再会を楽しみにしています。

私は今までに多くの国の若者のホストファミリーをしてきました。ささやかな心の繋がりが世界の平和の一助になると信じているからです。地道に活躍されている日韓市民ネットワークの皆さんの努力に敬意を申し上げます。



○歓迎！オ・ジンファちゃん

辻 沙也佳

初めてこちらの団体のイベントに参加させていただきました。ホストを探していると言われ、私の家では初めてのことでしたが引き受けることにしました。いざ引き受けたものの、何を食べ、どこへ行き、何をしなければよいのか等、とても悩みました。しかし、私の家のある岐阜までせっかく来てもらうのだから、他の方たちとは違うような事をして岐阜を知ってもら

深そうに目を丸くして眺めていました。食事では手巻き寿司を出したところ「おいしい！」と喜んでくれました。

2日目には両親と義姉と共に世界遺産白川郷へ行きました。行くまでに結構時間がかかったのですが、お互い行く途中で寝てしまったりしてしまいましたが・・・ソフトクリームを食べたり、白川郷を展望台から眺めたり、ショッピングセンターに行ったりと時間が許す限り行動しました。夕方には名古屋韓国学校での交流の夕べに参加し、たくさんの方と話をすることができました。人見知りで、さらに韓国語があまりできないこともあり、交流するのに苦労しましたが、韓国人、日本人、様々な年代の人と話をすることができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。交流の夕べの帰りには時間があつたので、ロープウェイで金華山に登り、岐阜城に入って夜景を見てきました。私も初めて岐阜城からの夜景を見ました。ソウルの夜景ほどではなかったですが、なかなか見ごたえのあるもので、自分の街を紹介するのによいものでした。

私自身が大学を卒業してからあまり韓国語を使う機会がなかったため忘れてしまい、つたない韓国語で上手くコミュニケーションが取れなかったのがすごく残念でした。これからもう一度韓国語の勉強をして、今回出会った人たちともっともっと交流していけたらと思います。今まではあまり無かった、韓国人学生との出会いと国際交流の場を設けてくださって本当に感謝しています。せっかくの機会ですから、今回できた縁を大切にしていきたいと思います。本当にありがとうございました。



おうと決めました。

当日はかなり緊張しながら国際センターに向かいしました。私の家には訪問団の中で一番若い呉珍和ちゃん19歳が来ました。若さに驚いてしまいました。これから3日間に不安と期待でいっぱいになりながら私の家へ向かいしました。一度家に帰り荷物を置き、時間に間に合ったので家から5分ほどの長良川へ鵜飼を見に行きました。私も久しぶりに伝統的な漁である鵜飼を見ました。とても幻想的でしたがジンファちゃんも興味

私は今回初めて、ホームスティの受け入れをしました。すべてが初めての経験だったので、家族も私自信もとても緊張していました。特に気になっていたことは私の韓国語の能力です。この程度で相手が不便に感じないだろうか、上手くいくだろうか、とても心配しました。しかし、その心配は一緒に話し、過ごしていくうちになくなりました。

私が伝えたいことを、ユンジュが、笑顔で理解しようと努力をしてくれるので、私も緊張せずに一生懸命話すことができました。

ホームスティで特に印象に残っているのは、最初の夕食の時間です。私の家でお好み焼きをみんなで焼いて食べました。韓国にはない食べ物、韓国とは違った調理方法の料理が多くあったようで、初めて見る食材に、驚いていました。特にオクラや納豆の食感は衝撃的だったようです。食べる時の表情が、とても不思議そうだったことを今でも忘れません。韓国の食文化や生活習慣の話などもしてそれぞれ違う点があり、面白かったです。

両親や祖母は韓国の方とお話することが初めてだ



ソウルでの再会

だったので、とても緊張していましたが、一緒にご飯を食べて話をしていくうちに笑いが耐えず、10時くらいまで食事をしていました。本当に楽しかったです。言葉は違ってもジェスチャーや表情で十分に気持ちが伝わるのだと感じました。

2日目は電車に乗って榮にショッピングに行ったり、

カフェでお互いの学校生活の話などをしました。一緒にいる時間は短かったけれど、いろいろな話をして、中身の濃い交流になりました。彼女とは、ホームスティ期間が終わった今でも連絡をとっています。夏休みに入り、韓国に旅行に行った時も一緒に遊んでもらいました。演劇を見たり、一緒にお酒を飲んだり、雨のなか高麗大学も案内してくれました。文化遺産にも連れて行ってくれました。さら

に滞在中に何か困ったことはないかと、本当のお姉さんのように毎日連絡をくれて、とても感動しました。今回のホームスティと交流会から、人との出会いとつながりの大切さを学びました。3日間という、短い間でしたがたくさんの思い出ができました。今後も連絡をとり続けて交流を深めていきたいと思います。

○韓国に心の友ができました！

今回わたしはこのプロジェクトに参加させていただいて本当に感謝しています。貴重な体験をたくさんさせて頂きました。私は大学に入学してから約2年半、韓国語の勉強を中心に頑張ってきたので、ですから、このホームスティの話を聞いた時、これは自分の今までやってきた実力を試すいい機会だと思い、すぐに参加を決めました。大学の授業で勉強してきたとはいえ、実際に韓国の方と韓国語で話す機会はほとんどなかったので、楽しみ半分、不安半分でした。

ホームスティ当日、対面して家までの道のりで、ちょうどその日に地元のお祭りがあったので、浴衣を着てお祭りに行こうと言ったら、一度着物を着てみたかったと言ってとても喜んでくれました。家に着いて家族全員で簡単に食事を済ませ、浴衣を着てお祭りに行きました。夜店のかき氷を食べたり、輪投げをしたり打ち上げ花火を見たり、楽しんでもらえたかと思います。日本に人が密集するイメージが無かったらしく、お祭りの人の多さに驚いていました。その帰りにプリクラを撮りました。日本のプリクラのクオリティの高さに驚いていました。日



本と韓国、お互い進んでいるものと遅れをとっているものがあるんだと実感しました。

次の日の韓国語学校での交流会の前に、家の庭で近所の人たちも呼んでバーベキューをしました。普段からたまに近所の人たちとバーベキューをするのですが、

この時は韓国語や英語の飛び交ういつもと違った雰囲気でもみんなで楽しく過ごしました。交流会から帰った後、オンニ（お姉さん）がうちの家族ひとりひとりに書いた手紙をくれました。姉には英語で、両親は英語も韓国語も出来ないで韓国語で書いてあり、私が訳して読みました。両親は感動して泣いていました。たった2泊3日でしたが、私たちはすぐに仲良くなりました。あまり国際的でない両親はホームスティの前までは韓国の事もよくわからないし言葉も通じないしどうしようといった感じでしたが、オンニが礼儀正しく、優しくにこにこしているの家族にも

すぐに溶け込み、帰る時には私よりも両親の方が別れを惜しんでいるようでした。私はその後すぐ韓国に行く予定があったので、会う約束をしてオンニと別れました。そして実際に韓国に行った時、10日間のうち、

3回くらいあそびました。私は今までも時々韓国に行っていましたし、この先も行くつもりですが、これからオンニに会うという目的も出来て、韓国に行く事がより楽しいものになりました。

ホストファミリーというのは初めての経験でしたが、限られた短い時間の中でまさか一生の友達になれるとは思っていませんでした。思っていた以上に、わたしが韓国語を話せるのを見て、両親にも私の韓国語の勉強に対する真剣さが伝わり、応援してくれるようにな

りました。韓国にも興味を持ってきたようです。今回のこの経験は全てが私にとってプラスになりました。韓国語で気持ちが伝わった時のうれしさも伝わらなかった時の悔しさも、これからのやる気に繋がりました。両親にも私の大好きな韓国に興味を持ってもらえるようになったことも、そして何よりも、オンニとの出会いです。このプロジェクトに参加して本当によかったです。ありがとうございました。

会員の広場 회원마당

こちらでは会員の皆様の声を載せております。

皆様から、「会員のみんなに伝えたい!」「韓国のここが好き!」は勿論、「こんな旅行して来た」も、日々の暮らしの様子などの皆さんの声を是非、お送り下さい。

○富士登山に見る国際交流

会員：山田 雅樹

添乗員になって、もうすぐ4年目。2年前からは富士登山ツアーの添乗も担当するようになった。今年はすでに9回、通算すれば、なんと26回も富士山に登ったことになる。元々、体力が無く、運動も好きではない僕が富士登山ツアーの添乗員になるなんて、夢にも思わなかったし、なにより、親も驚いている。最初は登り方を知らないものだから、徐々にペースは落ちて行き、ゼーゼー言いながら登ったものだった。最近は何とかコツを掴み、お客様と同じペースで登れるようになった。だが、登山には高山病が付き物で、僕は幸い発症したことは無いが、1回に付き大体3～4名は症状を訴える。その殆どが頭痛、めまい、吐き気である。これらの症状が出ると、もはや危険信号なのだ。高山病は登れば登るほど症状が重くなる。逆に言えば、高度が下がれば症状は軽くなるのだ。その辺りはバス車内でもくどい位説明し、発症したらリタイアしてもらおう。無理に登っても、症状が重くなると今度は下山出来なくなってしまう。他のお客様の迷惑になるし、何より自分が帰れなくなってしまえば元も子もない。無理をしないのが鉄則だ。

ただ、高山病を発症しても登りたいと言うお客様も多い。言い方は悪いが、このような「往生際の悪い」お客様が一番困るのだ。だから、僕もお客様の表情や動きを見て早めに判断するようにしているし、きつい口調になってでも諦めるよう説得する。この仕事で一番難しいのは、リタイアするお客様の説得だと僕は思っている。

さて、近年富士登山に参加するお客様にも外国人の方を多く見かける。欧米系の方だけでなく、韓国や中国のお客様も多い。留学生もいれば、期間限定で滞在している方や家族でお住まいの方まで幅広い。しかし、



参加した理由は同じで、殆どの方が「日本にいたうちに1度くらいは登ってみたい」と話す。やはり外国の方々にも、富士山は特別なものと解釈されているようだ。幸いにも、今年は外国人のお客様をご案内するときは天気も良く、ご来光も拝むことが出来て満足していた。また、富士登山の楽しみは夜の星空にもある。夜中に登るとき、天気が良いと見事な星空が私たちを出迎えてくれる。天の川や流れ星も普通に見えるほどで、登山中の疲れた体を癒す清涼剤でもあるのだ。先日参加した韓国のお客様も、「あれ、北斗七星だよな? カシオペアも見えるよ。」と大喜びだった。

ところで、添乗員の本来の業務は「旅程管理」である。添乗員は皆「旅程管理主任者」資格を取得し、従事している。文字通り、旅行日程を管理するのが我々添乗員の仕事なのだ。もちろん観光地の案内もするが、1つの団体を安全に目的地に案内し、安全に出発地まで帰るのが本来の業務である。とある外国人（アメリカだったと思う）のお客様からも、「40人もいるお客様をまとめながら、登山中も移動中も面倒見るなんてすごいね。なかなか出来るものじゃないよ」と、お褒めの言葉を頂いたのは嬉しいことだった。体調を崩したお客様にリタイアを促すのも、ここに繋がってくるのだ。お褒め頂いた言葉を糧に、通常の添乗はもちろん、来年の富士登山に向けても精進する所存である。また、韓国のお客様が参加された場合、韓国語で話しかけるようにはしているが、富士登山の注意事項はまだ韓国語で説明出来ずにいる。来年は、韓国語で富士登山の案内が完璧に出来るよう勉強を進めていきたい。

山田さんのブログ：<http://ameblo.jp/ktx063/>

▽お知らせ——日韓交流史フォーラム第Ⅴシリーズ 11月3日スタート

私たちは、一連の講座で韓半島の南半分の歴史については、ある程度理解してきました。しかし、高句麗まして渤海について一体どれだけ知っているかと言えば「ほとんど知らない!」が実際のところでしょう。古代、隋、唐と正面切って戦い、大国を何度でも窮地に追いやった強国・高句麗そしてロシアに至るまでの広大な領域を擁した渤海、彼らの真実の歴史を訪ねる最後の旅に出たいと思います。今回も最強の先生方にご登場いただきます。受講御希望又はお問い合わせの方は、事務局後藤まで。Tel・Fax 0587-56-6788 へ。定員がございますので、御希望の方はお早めに。

受講開場はすべて名古屋国際センター・開場は開始時刻の30分前。

NO	日程・場所	開始時間	講義内容	講師
1	11月3日(木) 3階・第2研修室	10:00～	地理で見る高句麗・渤海	日比谷高校 武井一氏
2	12月10日(土) 3階・第2研修室	10:00～	強大国高句麗の盛衰	早稲田大学教授 李成市氏
3	1月14日(土) 3階・第2研修室	10:00～	高句麗・華麗なる遺産 ～中・朝に残る遺跡～	滋賀県立大学教授 田中俊明氏
4	2月19日(日) 4階・第3研修室	14:00～	渤海・知られざる大国 ～200年の盛衰～	国学院大学教授 鈴木靖氏
5	3月18日(日) 4階・第3研修室	9:00～	大国渤海の残影 ～中・露にわたる遺跡～	金沢学院大学教授 小嶋芳孝氏
6	4月15日(日) 3階・第2研修室	10:00～	渤海と日本 ～隠された交流200年～	金沢学院大学教授 小嶋芳孝氏
7	5月末～6月初7泊8日を検討		栄光の高句麗・渤海紀行	九州歴史資料館長 西谷正氏

▽時調研究の瀬尾文子さんの記事が中日新聞に掲載——2011年8月16日付中日

韓国の定型詩「時調」を紹介

瀬尾 文子さん

「時調四三首選」などを世に出してきた。研究成果に対し、韓国時調文芸賞なども授与されている。「なんといっても魅力は、人間の心を詠ったよさ。とりわけ終章に深みがある」。がんを患う身だが、生ある限り、日本と韓国の詩歌界との橋渡し役として時調の普及に情熱を尽くす。
(黒谷正人)



三章六句、四十五文字で世界を詠む韓国の定型詩「時調」。名古屋市在住の瀬尾文子さんは、高麗時代末期に成立し、朝鮮半島に伝わる漢詩の魅力と日本に伝えてきた第一人者的な存在だ。新刊「愛の時調」(角川学芸出版)では、古詩から現代詩までの百六十九首を紹介。画家だった亡き夫との夫婦愛を主題にした反歌も添え、味わい深い内容にしてみた。

一九二七年、朝鮮半島生まれ。日本の皇民化教育の中で、朝鮮人児童に日本語を教えた。あるとき、街の壁の記号のようなものがハングルという言葉だと知ったときの衝撃

人の心を詠ったよさ 魅力

韓国の定型詩「時調(じちょう)」研究の第一人者であり、韓国政府から表彰された瀬尾文子会員の記事が、中日新聞8月16日付紙面に掲載されました。瀬尾さんは当会創立の頃からの会員で、韓国独特の「調べのリズム」とその心について永年研究と創作を続けてきました。

編集 後記

会報 No. 57 号をお届けします。今年は本会にとって大きな動きのある年でした。それは会の創生時代からの会員が何人かそれぞれの事情で会を去る事になりました。長野オリンピック開会式の日の本会が創立して14年。共に歩んで参りましたがそれぞれの御事情あつての事、そのお一人に会報編集の前任者もおられ、編集のお役が急遽私に回って来ました。初代編集者から数え、私で四代目。次の世代につなげられるようやって行くつもりであります。そのためにも多くの方からの原稿を頂きたいと思います。(嶽)

次回予定：第58号は2011年11月発行予定です。

日韓市民ネットワーク・なごや
会報：第57号
発行：2011年9月14日
編集：武田章敬